

出題のねらい

㊦は、井上靖の短編小説「波紋」からの出題です。この作品は、世間知らずな哲学青年舟木が「私」たちに残していった「波紋」を描いています。出題箇所では、「私」と舟木との関係、そして舟木の性格と行動について、前後の文脈を頼りに読み解いていくことがポイントとなります。オーソドックスな設問が多かったのですが、基礎的な語彙力の不足や、文脈や会話文の主体を読み解く力が足りないことによる誤答が目立ちました。

㊧は、鈴木董「文字世界で読む文明論 比較人類史七つの視点」からの出題です。現代文明の現状と将来に関する論説的文章であり、本文中の言葉を手掛かりにして作者の考えを丁寧に読み解くことがポイントとなります。文明論のような文章を読み慣れていない受験生には難しかったようですが、幅広い論説文に慣れておくことが必要です。



【解答】(50点)

問一	a 翻訳	b 甲高	c 属	d 草稿	
	e 容易				(2点×5)
問二	A ア	B ウ	C エ		(2点×3)
問三	ばかだなあ				(3点)
問四	田宮さんの奥さんが好きになってしまった				(4点)
問五	エ				(3点)
問六	彼には常に				(4点)
問七	〈i〉イ	〈ii〉ア			(3点×2)
問八	〈I〉彼	〈II〉君	〈III〉私		(3点×3)
問九	世事にうとく、世俗に汚されておらず、いかなる人間に対してもその美点のみが眼につく性質				(5点)

【解説】

問一 漢字の知識を問う問題です。b「甲高」とd「草稿」の正答率が低く、それぞれ「感高」、「想構」といった誤答が目につきました。漢字の書き取りは必ず出題されます。多くの本を読んで語彙力を増やすとともに、くり返し書き取りの練習をし、確実に書けるようにしておきましょう。

問二 文脈の理解を問う、オーソドックスな空欄補充の問題です。設問箇所前後の内容と、選択肢の語句の意味が正確に把握できていれば、正解を導き出すことができます。しかし、正答率は決して高いとは言えませんでした。

問三 会話文の読解力を問う問題です。設問箇所では、舟木と「私」、そして「私」の妻とが言葉を交わします。発言の主体が誰なのか、前後の文脈から判断し、さらに三人の会話の終わりに注目すれば、正解にたどりつけます。正答率は高めでしたが、発言主体が理解できていないことによる誤答が目立ちました。

問四 登場人物の行動の理由を問う問題です。舟木はあろうことか、田宮さんの奥さんに手紙を出すという「とんでもないこと」をしてしまいました。設問箇所の後を読んでいくと、舟木自身の口から田宮さんの奥さんが好きになってしまったことが語られています。その箇所さえ抜き出せば正解ということになります。正答率は高めでしたが、「自分が、押さえられなかったものですから」、「田宮さんの奥さんに手紙を挙げてしまった」という誤答が目立ちました。しかし、舟木は田宮さんの奥さんが好きになり、その気持ちを抑えられなかったため手紙を出したわけで、前者の答えでは「とんでもないこと」をした理由の説明としては不十分です。また後者の答えは、舟木がした「とんでもないこと」を具体的に説明したものに過ぎず、行為に及んだ理由の説明にはなっていません。

問五 文学的な表現の読解力を問う問題です。設問箇所の直前を読むと、舟木は一時の激情に駆られて時に突飛な行動を取るが、彼のあらゆる行為には「一種純粋な香気」が漂っていたとされています。このことが読み取れてさえいれば、選択肢のなかから正解を選ぶことは難しくはないはずです。正答率は高めでした。

問六 登場人物の行動の理由を問う問題です。なぜSは、哲学の専門家でもない「私」を舟木に紹介し

公募制推薦入試／国語(後期)

たのか。「私」は舟木という人物に接していくうちにその真意を理解するようになります。ということは、答えは設問箇所の直後、「私」による舟木の人物評の部分にあると考えられます。その部分を読んでいくと、舟木は世間知らずで人を疑うことを知らず、そのため常に彼を見守る存在が必要だということが述べられており、ここから、Sは「私」に舟木のお守り役としての役割を期待していたことが分かります。この部分を抜き出せば正解です。正答率は低くありませんでしたが、「京都には知」、「従って彼に」という誤答が目立ちました。前者は「京都には知人もないこと故、よろしく指導をたのむ」という意味のことが認められてあった」という本文を抜き出したものと思われる。しかし、これはSが書いた紹介状の大意を述べたものであり、Sの真意を示すわけではありません。後者については、前の文を受ける「従って」からいきなり始まる文となっており、設問に対する答えとして不適格です。

問七 登場人物の心理を問う、オーソドックスな空欄補充の問題です。設問箇所の直後に、「幾分由美の眼は輝いてくる」とあるので、「私」の妻は舟木の言葉を聞くことに恐怖や不安を感じていないことは明らかです。このことさえ読み取れていれば、正解を導くことは難しくありません。正答率は比較的高めでした。

問八 文脈の理解を問う問題です。いずれも人称代名詞が正解となります。設問箇所の前後で語られるエピソードの内容と、会話文の主体が分かれば正解を導くことができます。正答率は低めで、Ⅱでは「僕」、Ⅲでは「親」といった、人物関係が把握できていない誤答が目立ちました。また、本文中に出てくる基本的な慣用表現が分からなかったことによる誤答も見受けられました。

問九 文学的な表現の読解力を問う設問です。設問箇所の直前を読むと、舟木がいかなる人物であるかが述べられており、この部分に注目すれば、正解を導き出すことは容易です。設問箇所に「嬰兒の持つあの汚れ知らぬ神の目」とありますから、舟木が嬰兒のように純粋で世慣れていないことを示す箇所と、舟木が人間をどのように見ているかを示す箇所を抜き出せば正解となります。明確な誤答はあまり見られませんでした。「神の目」という箇所に注目して、舟木が人を見る目について述べた解答は多くありませんでした。

☐

【解答】(50点)

問一	a 磨	b 隔絶	c 堤防	d 規定	
	e 廃棄				(2点×5)
問二	〈i〉オ	〈ii〉ウ	〈iii〉イ	〈iv〉エ	
	〈v〉ア				(2点×5)
問三	〈X〉エ	〈Y〉イ			(3点×2)
問四	i きをいつにしている				(2点)
	ii 立場や考え方を同様にしている				(3点)
問五	文明の行き詰まりや、将来への不安				(4点)
問六	人間の社会生活が豊かになる一方で、想定外の事態が起これば、文明によって生活や生命が脅かされる状況				(5点)
問七	i 楽観				(3点)
	ii ウ				(4点)
	iii 悲観				(3点)

【解説】

問一 ☐で説明した通りです。毎年、漢字が必ず問われるのですから、問題集での書き取りの練習は、必須です。日常的な語であるc堤防とb隔絶、d規定に誤答が大きく目立ちました。

問二 接続詞を補充する問題です。論説的文章では定番とも言える、接続詞を補う空欄補充の問題です。①前後の文脈がどのような関係にあるか、②その関係を繋ぐ場合にどの接続詞が相応しいか、これらをきちんと理解しておいて下さい。そのためにも、それぞれの接続詞の役割を理解した上で、繰り返し練習して下さい。どれも誤答が目立ちました。

問三 空欄補充の問題です。内容を理解した上で、ふさわしい語を選択する必要があります。Xについては、第二段階に到達するためには「想定外をなくす」行為が必要であるが、福島原発事故以前の行動が、いかにも第一段階文明らしい行動であったことから、「典型」が導き出されます。Yについては、文明の前進とフィードバックとが支え合うという状況、また、句表現として「○○が取れる」という形であることから、「バランス」が導き出されます。

問四 基本的な語句を問う問題です。車の通った跡を同じくするところから転じて、立場や方向を同じくする意味となりました。意味を問うているのですから、言葉の置き換えとして「軌道(道・線)を同一(一つ・同じ)にしている」といった解答では意味の説明になりません。基本的な語句の知識を増やすことは、読解に必要なことです。

問五 本文内容の正確な理解を問う問題です。「『文明』の先行きについて」の「悲観論」ですから、個別の問題ではなく、「文明」に関する「悲観論」の箇所を選ぶ必要があります。「悲観論」の意味が「世の中や人生を悪と苦に満ちていると考えること」であることから考えれば、答えは導き出せます。基本的な語句「悲観・悲観論」を知っていれば容易に解答できたはずですが、誤答が目立ちました。

問六 本文内容の正確な理解を問う問題です。「両刃の剣」とは、「相手に打撃を与えると同時に、こちらもそれなりの打撃をこうむるおそれのあることのとえであり、そこから、役に立つと同時に、使い方によっては危険を招きかねないもののとえ」として用いられています。つまり、文明が人類にとって、役に立つと同時に危険であるという、両面を持った状況であることを説明する必要があります。

問七 本文内容を正確に読み取れているかを問う問題です。従来文明論が11頁3行目に「今までの文明論の多くは、『行け行けドンドン』タイプのもとして文明を捉えていた」とあること、また、9行目には「都合の悪いことが起こることなど想定する気がなかった」とあることから、空欄〈a〉「楽観」が導き出されます。空欄〈b〉は作者の考えを問う箇所です。作者は、第一段階・第二段階・第三段階と、文明の段階的な発展を主張しています。そこから、アが外れます。また、問三のように、文明の発展にフィードバック能力とのバランスが必要であることを主張しています。この点は、ア以外が当てはまるのですが、イの「科学技術のコントロール」、エの「『想定外』の事態を経験として」ということは本文中に書かれていません。誤答が多かったエについて補足すれば、作者は「『想定外』の事態などが生じないように、『危ない事態に対処出来るフィードバック対策に力を入れるべき』としていますから、エの内容とは異なります。このような選択肢の中から正答を選ぶ問題の場合、「内容は正しく見えても本文には書かれていない」ものを確実に外す操作も必要です。空欄〈c〉は11頁3行目で「私はそう悲観的でもない」としていることから「悲観」が導き出されます。